

雨上がりのグラウンド

—中学生の思いやりに気付く—

- 1 学年 第6学年〔中期〕
 2 主題名 本当の思いやり〔2-(2)〕
 3 ねらい 「ぼく」が親切にされ、うれしかった気持ちを考えることを通して、中学生の思いやりに気付く、相手の立場や気持ちを考えて温かく親切にしようとする心情を育てる。
 4 資料名 「雨上がりのグラウンド」
 5 展開

	学習活動と主な発問	児童の反応	指導上の留意点
導入	1 中学生の部活動の写真を提示し、中学生に対する思いを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 朝早くから、いっしょうけんめいに練習している。 ぼくも、中学生になったら、テニス部に入りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時に扱う中学生の部活動の様子について関心をもたせる。
展開	2 資料「雨上がりのグラウンド」の資料を読んで話し合う。 ○ 今朝、中学生は部活動で何をしていたのでしょうか。 ○ 中学生に「手伝ってや。」と言われて、だまっていたぼくは、どんなことを思っていたでしょう。 ◎ 美しくなったテニスコートを見て、隆司くんの顔を見ながらにっこりとほほえんだぼくは、どんなことを思っていたでしょう。 3 自分たちの生活を振り返って、話し合う。 ○ 人にやさしくされたり、自分が親切にしてあげたりしたことはありませんか。	<ul style="list-style-type: none"> グラウンドについた足あとを消していた。 どろどろの中をスポンジを使って整地していた。 ぼくが、足あとを付けたんじゃないんだ。 たくさんの足あとを消すのは、大変だなあ。 手伝おうかなあ。 お兄さんたちは、がんばってグラウンドをきれいにしたんだなあ。 大変だったなあ。今朝、ぼくも手伝えばよかったなあ。 お兄さんがつけた足あとではなかったのに、自分たちで消してえらいなあ。 ぼくも、お兄さんのようにやさしく親切な人になりたいなあ。 野球で、エラーをした時、やさしくフォローしてくれて、ほっとした。 色鉛筆を落として、ばらばらになったとき、いっしょに拾ってくれてうれしかった。 バスで、下級生に席をゆずってあげたら、「ありがとう。」と言われて、うれしかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学生が、いっしょうけんめいに整地している様子を押しさえる。 まっていたぼくの気持ちを想像させる。 ワークシートに自分の思いを書いた上で、話し合い活動を行う。 ネームプレートを貼り、自分の思いを確かめ、友だちの思いと比較させる。 親切にされたり、親切にできたりした時、どんな気持ちだったかを言わせることにより、道徳的実践力を高める。
終末	4 児童の日記を読む。	<ul style="list-style-type: none"> ぼくも友だちにやさしくしよう。 私も相手の立場や気持ちを考えて、思いやりのある行動をしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 親切にされてうれしかった実話を紹介する。

6 授業の概要

(1) 主題について

相手を思いやり、親切にすることは、明るく、幸福な社会を築いていく上でとても大切なことである。

高学年においては、特に相手の立場に立つことを強調する必要がある。どのように接し、対処することが相手のためになるのかを考えた言動が求められる。

また、人間関係の深さの違いや意見の相違などを乗り越え、思いやりの心とそれが伴った親切な行為を、児童が接する全ての人に広げていく指導も大切である。そのためには、児童が多様な他者と触れ合い、助け合って何かをするような機会を増やすとともに、それらの体験を生かし、思いやりの心をもつことの大切さについて深く考えられるように工夫する必要がある。

思いやりのある親切な行動をするためには、やさしさとともに、相手の変化に気付く鋭敏な感受性と、相手の立場に立って考えられる想像力を育てることも必要である。

本資料を通して「自分も中学生のようにやさしい人になりたい。」と共感させるとともに、「相手のことを思いやり、親切にする。」ことによって、自分も相手も楽しく、気持ちのよい生活をつくりだしていこうとする心情を育てたい。

(2) 自作資料活用のポイント

ア 小中一貫教育との関連

資料「雨上がりのグラウンド」は、小中一貫教育校の警固屋学園での事実をもとに作成したものである。小中一貫教育が全中学校区で推進されている呉市では、小中学校及び異学年での交流の機会が多い。このような場面での接し方と本資料による学習との関連を図りたい。

イ 実施時期

本資料は、最高学年を迎えた1学期、6年生の折り返し地点を迎える2学期、そして卒業をひかえた3学期等、児童の実態等に応じ、実施時期を検討したい。

ウ ねらいにせまるため

本資料は、「ぼく」の気持ちに寄り添いながら、ねらいにせまることができやすい資料である。また、親切にされたり、親切にしたりした時の自身の気持ちを資料に重ね合わせながら、自分自身を見つめさせたい。

(3) 指導過程の工夫

ア 基本発問の工夫

中心発問での中学生の思いやりの気持ちを深く考えさせるために、基本発問により、中学生の部活動の様子や中学生に「手伝ってや。」と言われて動けなかった「ぼく」の気持ちを押しさえておきたい。

イ 自分の思いを表現させる工夫

中心発問において「にっこりとほほえんだぼく」の気持ちをワークシートに書かせることによって中学生に対する「ぼく」の気持ちを考えさせたい。また、発言できにくい児童には、ネームプレート等を利用して自分の思いを表現させるとよい。

ウ 生活を見つめさせるための工夫

展開後段で、事前の児童へのアンケート調査や平素の日記などから、子どもたちの日常生活の中にある思いやりや親切の実態を把握し、例示する等の工夫も考えられる。